

共通情報：きっかけ

小学6年生の男子児童Aは今年になって、父親の仕事の都合で他県から転校してきた児童である。

7月中旬の個人懇談会で、Aの母親から担任に、以下のような相談があった。

5年生のときからAに毎月小遣いをわたしていた。今年の6月頃から『使い切ってしまった』と更にもらいに来ようになり、頻度もだんだんと多くなった。時々、母親の財布から小銭を抜き取っている様子もあり、他の子からお金を要求されていないか心配である。母親がAに理由を聞いたときには、『サッカーの練習後にジュースを買ったりするから』と言われ、心配のし過ぎかもしれないとも感じている。

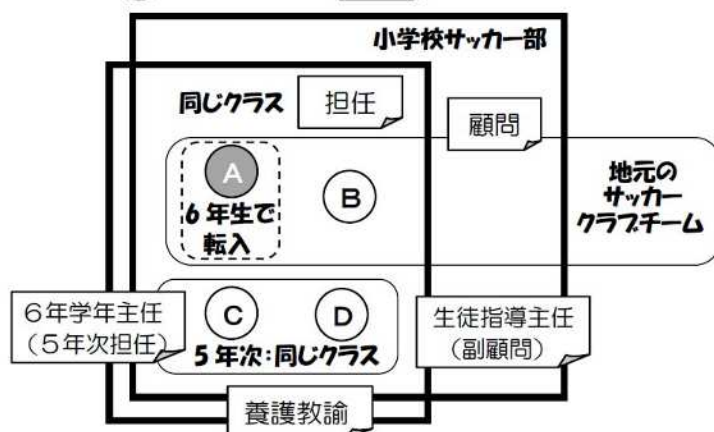
Aの母親は、このときは積極的な対応を求めているわけではなかった。

2学期になり、Aの行動が気になり始めたことから、9月末に情報を共有し、整理することとした。あなたのもっている情報は、以下の内容である。

個別情報1：担任

- ・Aは小さい頃からサッカーをやっていたため、転入後もすぐにサッカー部に入った。
- ・Aは、サッカー部で同じクラスのB、C、Dと一緒に行動するようになった。
- ・Aはサッカーがうまく、CはAに対して「転校してきてすぐにレギュラーなんて、ちょっとは遠慮してほしい」、Dは「Aのおかげでレギュラーの枠が1個減った」と言っているのを聞いた。そのとき、Bは「お前らとは実力が違うんだから、しょうがないだろ」と、CとDに言っていた。
- ・6月に全校で実施した【学校生活アンケート】では、〈最近、気になっていることはありますか?〉という質問に対して、Aについての記述はなかった。Aも特に何も書いていない。
- ・アンケート実施後の個人面談で、Aは『学校にも、クラスにも慣れてきて、サッカー部で友達もできて楽しい』と話した。
- ・9月になり、夏休み中の状況を確認するためにAの母親に連絡をしたが、“あれからは大丈夫そうです。心配をかけてすみませんでした。”と話された。
- ・9月中旬、学年主任からAの告白行為についての話を聞いた。すぐにAを呼んで話を聞くと、Aは告白行為が『4人で決めた罰ゲーム』であり、『もう、やめる』と話した。その夕方、母親に連絡すると、Aは自分から母親に罰ゲームのことを伝えており、『ただの罰ゲームで、自分ばかりが負けただけ。みんなに迷惑をかけるようなことはもうしない。』とAが言っているとのことだった。

〈関係図〉○：関係児童，□：関係教員



判断の3観点		個人判断
①	被害感	
②	行為	
③	客観性	
A～Gの判断		↓

共通情報：きっかけ

小学6年生の男子児童Aは今年になって、父親の仕事の都合で他県から転校してきた児童である。

7月中旬の個人懇談会で、Aの母親から担任に、以下のような相談があった。

5年生のときからAに毎月小遣いをわたしていた。今年の6月頃から『使い切ってしまった』と更にもらいに来るようになり、頻度もだんだんと多くなった。時々、母親の財布から小銭を抜き取っている様子もあり、他の子からお金を要求されていないか心配である。母親がAに理由を聞いたときには、『サッカーの練習後にジュースを買ったりするから』と言われ、心配のし過ぎかもしれないとも感じている。

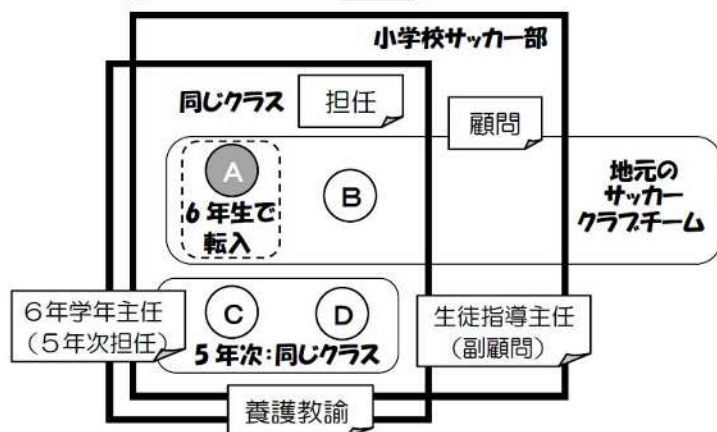
Aの母親は、このときは積極的な対応を求めているわけではなかった。

2学期になり、Aの行動が気になり始めたことから、9月末に情報を共有し、整理することとした。あなたのもっている情報は、以下の内容である。

個別情報2：養護教諭

- ・Aは4月当初『少し息苦しい』と、保健室に来ることが何度かあった。Aは幼稚園の年中と小学3年生のときにも、父親の転勤により転校を経験しており、『こういうことは慣れている』と少し休み、『心配するといけいないんで、先生には言わないでください』と言い、教室に帰っていた。
- ・Aはサッカー部の練習中にも足が痛むと来室し、『みんなの当たりが厳しい』『これくらいのこと、我慢しなきゃいけない』と話していた。
- ・以前、練習メニューのペナルティが“ジュースをおごる”ことになったとき、お金を持っていなかったAが断ると、Bからは「どうせ、負けるのが嫌なんだろ」、Cにも「ノリが悪いな」「ケチるなよ」と言われ、その後しばらくは一緒にいても相手にされず、練習中も無視されていた。Aは『やるしかないのかな』と思って、自分から『ジュースをおごる』と言って仲直りを求め、元の関係に戻った。学年集会で注意されてからは、“ジュースをおごる”ことはなくなった。
- ・最近、Aが“女子に告白する罰ゲーム”について担任から指摘されたことを話してくれた。AはB、C、Dに『他の子に迷惑がかかるから止めたい』と言ったけど、「本気じゃないんだし、みんな笑ってただろう」と言われ、相手にしてもらえなかった。

〈関係図〉 ○：関係児童， □：関係教員



判断の3観点		個人判断
①	被害感	
②	行為	
③	客観性	
A～Gの判断		↓

共通情報：きっかけ

小学6年生の男子児童Aは今年になって、父親の仕事の都合で他県から転校してきた児童である。

7月中旬の個人懇談会で、Aの母親から担任に、以下のような相談があった。

5年生のときからAに毎月小遣いをわたしていた。今年の6月頃から『使い切ってしまった』と更にもらいに来るようになり、頻度もだんだんと多くなった。時々、母親の財布から小銭を抜き取っている様子もあり、他の子からお金を要求されていないか心配である。母親がAに理由を聞いたときには、『サッカーの練習後にジュースを買ったりするから』と言われ、心配のし過ぎかもしれないとも感じている。

Aの母親は、このときは積極的な対応を求めているわけではなかった。

2学期になり、Aの行動が気になり始めたことから、9月末に情報を共有し、整理することとした。あなたのもっている情報は、以下の内容である。

個別情報3：サッカー部顧問 ※5年次はBの担任

- ・B、C、Dは4年生からサッカー部に所属している。
- ・Bは3年生で地元のクラブチームに入り、サッカー部では5年生のときに6年生にまがり唯一のレギュラーだった。
- ・サッカー部の顧問は、練習予定をクラブチームのコーチに連絡している。サッカー部の練習がない休業日にクラブチームの練習が組まれることになっている。
- ・4月末、Aを5月からのレギュラー候補に入れたが、少しして『まだチームに慣れていない』『チームメイトに迷惑がかかる』と辞退を申し出てきた。Aをレギュラーにしたのは夏休みになってからのこと。
- ・5月の連休、Bが所属するクラブチームと合同練習をしたときに、Aはチームへの入団を勧誘され、6月からBと同じクラブチームで活動している。
- ・クラブチームの指導スタッフにはボランティアの大学生も多く、合同練習のメニューを考えてくれた。ゲーム性が高く、ペナルティ（罰）を科すものもあり、児童にも好評であった。練習後にはPK（ペナルティキック）で勝負して、“勝ったら、ジュースをおごってあげる”というゲームもやっていた。実際におごってもらった児童もいたが、保護者も来ていたため、顧問からは特に何も言わなかった。
- ・クラブチームのコーチから、Aは8月からレギュラー候補としてスタメンで試合に出るようになり、一方のBは控え選手に回ることが多くなったと聞いている。

〈関係図〉 ○：関係児童， □：関係教員



判断の3観点		個人判断
①	被害感	
②	行為	
③	客観性	
A～Gの判断		

共通情報：きっかけ

小学6年生の男子児童Aは今年になって、父親の仕事の都合で他県から転校してきた児童である。

7月中旬の個人懇談会で、Aの母親から担任に、以下のような相談があった。

5年生のときからAに毎月小遣いをわたしていた。今年の6月頃から『使い切ってしまった』と更にもらいに来るようになり、頻度もだんだんと多くなった。時々、母親の財布から小銭を抜き取っている様子もあり、他の子からお金を要求されていないか心配である。母親がAに理由を聞いたときには、『サッカーの練習後にジュースを買ったりするから』と言われ、心配のし過ぎかもしれないとも感じている。

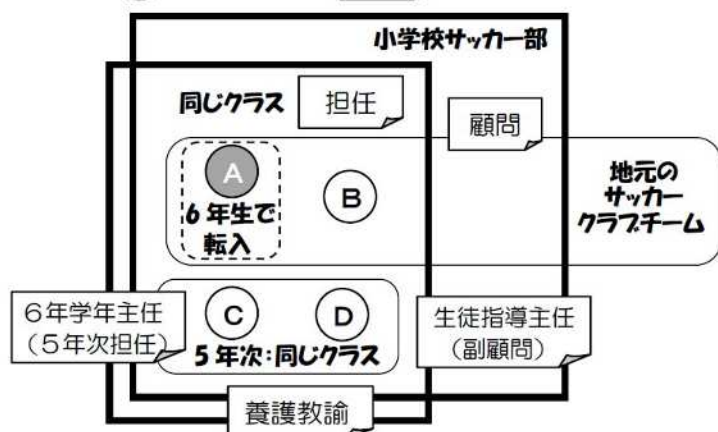
Aの母親は、このときは積極的な対応を求めているわけではなかった。

2学期になり、Aの行動が気になり始めたことから、9月末に情報を共有し、整理することとした。あなたのもっている情報は、以下の内容である。

個別情報4：学年主任 ※5年次はCとDの担任で学年の副主任

- ・5年生のとき、Cは親の財布からお金を持っていったところを、母親に見つかり注意された。このとき、Cの母親は他の家庭がどれくらい“小遣い”を与えているかについて、相談してきた。
- ・Cは6年生になって、「サッカーがうまいAが転校してきて、今年もレギュラーになれないかもしれない」と心配していた。Cは努力家でよく練習をしていたので、とても残念そうだった。
- ・夏休み前から、休み時間にAが一人であることを何度か見かけて声をかけたことがある。Aは『サッカー以外では、友達とうまくかかわれない』ため、『一人でいる方が楽だけど、独りぼっちとは思われたくない』と言っていた。
- ・9月中旬、放課中に女子児童が騒がしくしていたので話を聞くと、“Aくんが、好きでもないのに告白してくるので、止めさせてほしい”とのことだった。こうした行為を何人かの女子に対して行っているという。担任に報告し、Aへの確認と保護者連絡をお願いした。
- ・担任からは、4人が“罰ゲーム”として“悪ふざけ”でやっていたと報告を受け、B、C、Dから話を聞いた。Bは「テレビで見た罰ゲームのまねをしてやってただけで、たまたまAが連続で負けた」、Cは「嫌がってたかもしれないけど、みんな笑ってたからいいかなと思った」、Dは「みんながやろうと言ったから、その場のノリでやってた」と話した。

〈関係図〉 ○：関係児童、 □：関係教員



判断の3観点		個人判断
①	被害感	
②	行為	
③	客観性	
A～Gの判断		↓

共通情報：きっかけ

小学6年生の男子児童Aは今年になって、父親の仕事の都合で他県から転校してきた児童である。

7月中旬の個人懇談会で、Aの母親から担任に、以下のような相談があった。

5年生のときからAに毎月小遣いをわたしていた。今年の6月頃から『使い切ってしまった』と更にもらいに来るようになり、頻度もだんだんと多くなった。時々、母親の財布から小銭を抜き取っている様子もあり、他の子からお金を要求されていないか心配である。母親がAに理由を聞いたときには、『サッカーの練習後にジュースを買ったりするから』と言われ、心配のし過ぎかもしれないとも感じている。

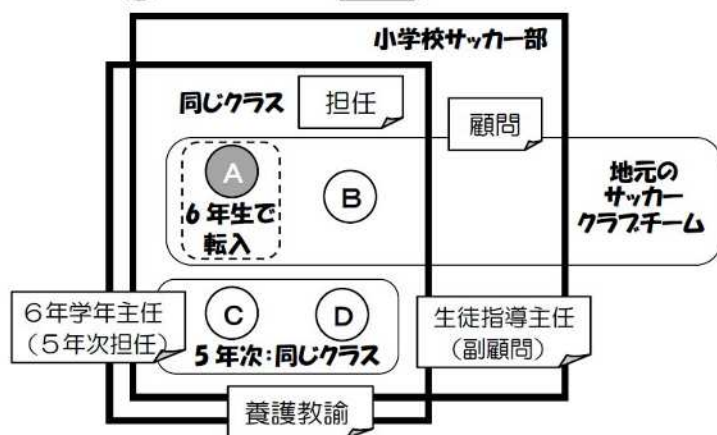
Aの母親は、このときは積極的な対応を求めているわけではなかった。

2学期になり、Aの行動が気になり始めたことから、9月末に情報を共有し、整理することとした。あなたのもっている情報は、以下の内容である。

個別情報5：生徒指導主任（サッカー部副顧問）

- ・6月に全校で実施した【学校生活アンケート】の〈最近、気になっていることはありますか?〉という項目の回答で、“今度おごってあげるから、今日はおごってと言われた”や“勝負で負けた方がおごる”など、お金に関することを書いた児童が、6年生に何人かいた。また、5年生の中には“サッカー部の6年生が、ペナルティでジュースをおごり合っている。どうせ勝てないし、断れないから、自分たちも言われぬか心配”という意見があった。
- ・【学校生活アンケート】の意見を受けて、学年集会を開いて“親からもらった小遣いを、子ども同士でおごり合うことはしない”よう注意を喚起した。それ以降は、サッカー部での“おごり合い”はないようである。
- ・サッカー部の練習試合や対外試合には、保護者が応援に来ることが多く、B、C、Dの保護者も応援に来ていた。Bの母親は特に熱心で、Bの兄は私立のサッカー強豪校に推薦入学したが、ケガでしばらく練習に参加できていないそうである。
- ・Aの母親とは、練習を見に来ていたときに少し話をしたことがある。“父親の仕事は転勤も多く、長期の出張もあり、休みも不規則で子どもと関わる時間はほとんどなかった”らしく、“一人っ子のAの友達づくりの場になるように、小さい頃からサッカースクールに通わせてきた”とのことだった。

〈関係図〉 ○：関係児童， □：関係教員



判断の3観点		個人判断
①	被害感	
②	行為	
③	客観性	
A～Gの判断		↓

共通情報：きっかけ

小学6年生の男子児童Aは今年になって、父親の仕事の都合で他県から転校してきた児童である。

7月中旬の個人懇談会で、Aの母親から担任に、以下のような相談があった。

5年生のときからAに毎月小遣いをわたしていた。今年の6月頃から『使い切ってしまった』と更にもらいに来るようになり、頻度もだんだんと多くなった。時々、母親の財布から小銭を抜き取っている様子もあり、他の子からお金を要求されていないか心配である。母親がAに理由を聞いたときには、『サッカーの練習後にジュースを買ったりするから』と言われ、心配のし過ぎかもしれないとも感じている。

Aの母親は、このときは積極的な対応を求めているわけではなかった。

2学期になり、Aの行動が気になり始めたことから、9月末に情報を共有し、整理することとした。
あなたのもっている情報は、以下の内容である。

〈関係図〉 ○：関係児童， □：関係教員

